



今回は、第10回「さくら塾」（高見剛先生講演会）の報告です。

◇ 高見剛先生（岐阜大学名誉教授）の講演会

期 日： 平成29年3月7日(火) 13:30 ~ 15:00
場 所： 北舎別館2F
講 師： 高見 剛 先生（岐阜大学名誉教授、株式会社東海細胞研究所顧問）
演 題： 「医学部医学科をめざす」
対 象： 医学部医学科をめざす1・2年生生徒(10名)

岐阜大学名誉教授高見剛先生の講演会も、今年で4回目を数えます。今まで受講した生徒の中から、すでに5名が岐阜大学医学部医学科に合格しています。医師の仕事、地域医療の果たす重要な役割、医学部医学科の受験対策。高見先生のお話は様々な分野に及びます。

持続可能な地域社会の発展にとって、進んで地域医療に従事しようという志を持った若者の存在は欠かせません。関高のSGH活動にとっても、重要な研究分野のひとつです。関高では例年、「さくら塾」やリサーチツアー、職業別ガイダンスなどの機会を利用して、医療関係の方々の講演会や医療体験セミナー、施設見学、大学ゼミ参加を実施しています。今回の高見先生の講演会も、そうした試みのひとつです。

◇ 参加した生徒の感想

■医学部入試の仕組みが今までよくわからなかったけど、詳しく知ることができてよかったです。岐阜大学医学部医学科地域枠入試で合格するには、面接試験が大切だということがわかりました。私にはまだ語彙力が足りないと思うので、本や新聞を読む機会を作りたいです。また、あと約2年ある中で少しずつ使えるようにもしていきたいです。

■私はこのままだと面接に行けたとしても不合格だなと思いました。目指すにはセンター8割以上取らねばと思っていましたが、面接についてもこの一年で少しずつ準備して行く必要があると思いました。春休みに早速、高見先生ご推薦の本を読んで見たいと思います。また、今回の会に参加した同じクラスの人たちで、読書会や対策会をするのは、他の人の表現の仕方を自分に取り入れられたり、自分も練習になるので、ともに目指し高めていく感じでいいなと思いました。

最後にお話のあった、奥穂高夏山診療所のことを前から知っていて興味があり、きょう改めて素敵なおところだとわかり、さらに行きたくなりました。面接試験でのよい評価は、国語力をしっかり身に付けておかないと得られないことがわかりました。国語の勉強をしっかりとやり、適切な言葉や魅力的な言葉を使えるように勉強することや、医療や社会全般のニュースを普段から見ておくことなど、今から毎日できることはたくさんあると思いました。あとは、この一年で自分が医学部に入って具体的に何をしたいのかどうなりたいのか、医者といっても種類はたくさんあるので、どの分野にするのかなどの根拠をはっきりさせたうえで決めて行き、少しずつ面接に強くなり、強い意志を持って最終的にのぞめるようにしたいです。

■昨年も高見先生の講座を受けました。お話の内容が前回とかなり違って、受講してよかったです。とくに、アウトプットの話が印象的で、いつも暗記物をやるときはひたすら見て暗記していたので、これからは声に出したり、書いたりして効率よく勉強していきたいと思いました。アウトプットの練習と語彙力を増やすために、高見先生のおっしゃっていたことを実践していきたいと思います。

■昨年も高見先生の講座に参加させて頂きましたが、昨年とはまた違った話が聞け、また医学部に向かう姿勢も変わってきたので、今回の講義は非常に有意義でした。特に、自分は医学部受験において、面接や小論文など、自己アピールをすることについて不安を抱えていたので、そのことがたくさん触れられていて、大変勉強になりました。

やはりこれから必要となってくるのは、コミュニケーション能力、あるいは自己表現力だと実感しました。そんな力をつけていくために、高見先生ご推薦の本を読んだり、友達と会話するときも、空疎な会話にならないよう、そして順序立て、理路整然とした矛盾のない話ができるようになりたいと思いました。できれば、今日一緒に講義を受けた2年生4人とも、今日先生がご紹介くださった、本の魅力を1分でアピールするといった、アウトプットの訓練もしていきたいと思いました。

■今日、高見先生の話聞いて、まず語彙力をつけようと思いました。文章力のことをたくさんおっしゃっていましたが、私も普段から話し方は人の印象を決めるもので大切だと感じていたので、高見先生の話はとても納得できました。これから新聞や本をたくさん読んで、人と会話することで言葉を自分のものにしていききたいと思います。

■私は今日の話聞いて、医学部受験には今のうちに自分の知性や人間性を磨き、それをアピールするトレーニングをすることが大切だと分かりました。数学や英語などの教科も、受験に受かるためだけではなく、進学後も使える能力として身につけたいと思いました。どんなことを聞かれてもすぐに返せるように広い視野をもって様々な情報を収集することの大切さも分かりました。医師になりたいと思ったポジティブな気持ちを大切に、受験勉強を頑張っていこうと思います。

■僕は今回のさくら塾を受けて、まず国語力をつけたいと思いました。今まで、「国語はフィーリング、だから運が良ければ取れる」、とあまり気にしていませんでした。しかし高見先生は、国語というのはテストの点数にだけ表れるのではなく、面接などの時にも特に表れるのだとおっしゃっていました。今まで大事にしていなかったものが、むしろ今後一番必要になるかもしれないのだと気づき、危機感を持ちました。

「医学部」ということに関していうと、僕が医者になるとしたら、地元の人たちを支えられるようにしたいと思いました。僕は関市の中心地から離れたところで育ちました。お年寄りの方が多いですが、そのような人たちこそ医療がより必要になってきます。以前、後藤忠雄先生（白鳥病院院長）のお話を聞いた時も、都市の医師は増えているが、へき地の医師は少ないということと、今後は専門性の高い知識を持った医者よりも、オールマイティーに活躍できる医者が増えると良いということをおっしゃっていました。以上のことから、岐阜大学の地域枠というのはとてもありがたい仕組みなのだと感じました。

また、医者になるというのは、人の命を預かるという事であるということが分かったので、医学部医学科に進むと決めた時には、その責任を常に心に刻めるようにしたいと思いました。今、はっきり医師になりたいと決意をしている訳ではありませんが、何においてもまず国語が大事だと分かったので、国語力を磨き、そして色々な大学の教授や功績を残した方々について調べて、深く理解したいと思いました。

今回のさくら塾は、岐阜大学の医学部医学科に進むこと以外にも大切だと思うことがたくさんあったので、今後の生活に生かしていきたいと思いました。

